

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成18年5月11日(2006.5.11)

【公開番号】特開2006-81228(P2006-81228A)

【公開日】平成18年3月23日(2006.3.23)

【年通号数】公開・登録公報2006-012

【出願番号】特願2005-351228(P2005-351228)

【国際特許分類】

H 04 B 1/04 (2006.01)

【F I】

H 04 B 1/04 H

【手続補正書】

【提出日】平成18年2月14日(2006.2.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

水晶振動子と、

該水晶振動子に結合され、固定の基本振動周波数を出力する基本振動周波数発振回路と

リアクトルと、

該リアクトルに結合され、発振周波数が制御されるFM放送波発振回路と、

該FM放送波発振回路の発振周波数を可変分周するプログラムカウンタ、基本振動周波数を分周する基準周波数分周回路、前記プログラムカウンタの出力と前記基準周波数分周回路の出力とを比較して前記FM放送波発振回路の発振制御用の信号を出力する位相比較回路からなるPLL周波数シンセサイザと、

左右2系統の音声信号を前記基本振動周波数から生成されるクロックを用いてステレオ変調し、前記FM放送波発振回路の発振制御用の信号を出力するステレオ変調回路と、を備え、

前記基本振動周波数は、7.6MHzまたは1.9MHzの整数倍であり、前記基本振動周波数から生成されるクロックは19kHzの周波数信号を含み、19kHzの周波数信号はセパレーション調整用の可変コンデンサを通してステレオ変調回路に与えられることを特徴とするFM送信機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

請求項1のFM送信機は、水晶振動子と、該水晶振動子に結合され、固定の基本振動周波数を出力する基本振動周波数発振回路と、リアクトルと、該リアクトルに結合され、発振周波数が制御されるFM放送波発振回路と、該FM放送波発振回路の発振周波数を可変分周するプログラムカウンタ、基本振動周波数を分周する基準周波数分周回路、前記プログラムカウンタの出力と前記基準周波数分周回路の出力とを比較して前記FM放送波発振回路の発振制御用の信号を出力する位相比較回路からなるPLL周波数シンセサイザと、

左右2系統の音声信号を前記基本振動周波数から生成されるクロックを用いてステレオ変調し、前記FM放送波発振回路の発振制御用の信号を出力するステレオ変調回路と、を備え、前記基本振動周波数は、7.6MHzまたは1.9MHzの整数倍であり、前記基本振動周波数から生成されるクロックは19KHzの周波数信号を含み、19KHzの周波数信号はセパレーション調整用の可変コンデンサを通してステレオ変調回路に与えられることを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

本発明の請求項1の構成によれば、ステレオ変調用の周波数信号とPLL周波数シンセサイザの周波数信号について検討し、前者については分周化を採用し、後者については必要な周波数区分の見直しを行い、7.6MHzまたは1.9MHzの整数倍の周波数を基準周波数とし、前記基本振動周波数から生成されるクロックは19KHzの周波数信号を含み、19KHzの周波数信号はセパレーション調整用の可変コンデンサを通してステレオ変調回路に与えられることで、従来は、周波数毎に別々に必要とされていた発振器及びこれに用いられる振動子を单一にすることができる。